神戸女子短期大学　論攷　第68巻　13－24（2023）

－ 原著論文 －

イギリスの就学前・初等音楽教育における音楽の諸要素を軸とした指導法

－ EYFS2021と MNC に基づいた教科書分析－

小松原　祥子

Teaching Methods Based on the Elements of Music in Pre-School and Primary Music Education in the England:

Textbook Analysis Based on EYFS2021 and MNC

Sachiko KOMATSUBARA

要　旨

本稿では、イギリスの乳幼児期基礎段階（Early Years Foundation Stage=EYFS）2021年版の「表現芸術とデザイン」、及びカリキュラム・ガイダンス（2021）における音楽的発達と援助の観点、音楽科ナショナル・カリキュラム（Music in the National Curriculum =MNC）2013年告示版に基づき、音楽の諸要素にまつわる活動を中心に、就学前から初等学校低学年キーステージ（KS）1（5－7歳）の音楽教科書の内容でどのように展開させる見通しがあるかを明らかにすることを目的とした。その結果、4歳から初等学校 KS 1 の歌唱活動においてピッチマッチの訓練を行う観点があり、そのために遊びの中で音楽の諸要素を意識する活動が行われていること、音楽の諸要素と身体表現を結び付けた活動が「聴取」の力と組み合わせて設定されているといった特徴が明らかになった。

キーワード：イギリス（England）
乳幼児期基礎段階（Early Years Foundation Stage）
初等音楽教育（Primary Music Education）
音楽科ナショナル・カリキュラム（Music in the National Curriculum）
音楽の諸要素（the Elements of Music）
教科書（Textbook）

神戸女子短期大学　幼児教育学科

1．緒言―研究の背景と目的

イギリス（本研究ではイングランドを対象とする）では就学前教育施設及びチャイルドマインダーなど個人の保育者に義務付けられている0歳から5歳を対象とした統一した法令カリキュラム「乳幼児期基礎段階」Early Years Foundation Stage（以下 EYFS）が2008年に導入され、2012・2014・2017・2021年に改訂が行われている。制度としては、就学前の５歳までは公立の保育学校（Nursery School)、小学校附設保育学級（Nursery Class)、保育所（Day Nursery）の他、４歳から５歳まで小学校附設のレセプションクラス（Reception Class）に所属することができる。あるいは私立やボランタリーの提供主体、チャイルドマインダーと呼ばれる個人で預かる家庭的保育、親が運営するプレイグループなどの非施設型保育がある[1)]。従って EYFS 及びそのガイダンスの内容は、施設に所属する保育者だけでなく、「大人（adults)」がどのように関わり、支援するかという広い観点で述べられている[2)]。

イギリスにおける初等教育以上の学校音楽教育としては、1988年に教育改革法（Education Reform Act）が成立し、統一的な教育課程の基準としてナショナル・カリキュラムが制定され、音楽科では1992年より音楽科ナショナル・カリキュラム（Music in the National Curriculum、以下 MNC）が導入された。最新版である2013年告示・2014年施行版では従来あった到達目標（Attainment Targets）のレベル分けは示されず、簡略化された学習内容となっている[3)]。

なお、５歳から初等教育が開始となり、５－７歳が「キーステージ（以下 KS）１」, 7 －11歳が「KS２」であり、KS２までが初等教育である[4)]。

MNC と EYFS の位置付けとしては、MNC は「基礎教科 (foundation subjects」」の中の「音楽科」として独立しており、2013年告示版では「目的」の中に「演奏、聴取、音楽の批評及び評価、作曲」に関わる様々な内容が掲げられ、KS 終了時に学習内容に関連した到達目標を達成すること、KS ごとに教科内容として演奏、聴取、音楽の批評及び評価、作曲に関わる学習内容が挙げられている。一方 EYFS2021では音楽は「教育的プログラム」の中の「表現芸術及びデザイン」にカテゴリーされ、「期待される発達のレベル」として他の表現芸術及びデザインと関連する形で「乳幼児期学修目標（Early Learning Goals）＝ ELG」が簡潔に示されている[5)]。

改訂した EYFS2021の主な変更点としては、シンプルになったこと、インクルーシブ教育の観点からあらゆる子ども達を対象とし、子どもの状況に応じた判断が求められるようになったことが挙げられる。2021年改訂版カリキュラム・ガイダンスの前書きには、「次の年齢段階に上がることや、当該年齢段階の全てをカバーしようとしたりするよりも、深く学ぶことの方がはるかに重要である」と書かれており、専門家としての判断により多様な全ての子ども達がそれぞれの成長に合った形で支援を進めていくことが重視されている。改訂の背景として、家庭の経済的環境、英語を母語としない子ども、特別支援児との格差を踏まえ、全ての子どもを対象としたインクルージョンが求められたことが挙げられる。

EYFS の「教育プログラム」のガイダンスとして、音楽に関しては2018年に“A Unique Child”を前提とした音楽的学びと月齢に即した発達を「聞くことと聴くこと」「声を出すことと歌唱」「動くこととダンス」「探求と遊び」にカテゴリー化して関わりや環境構成を詳細に示した『音楽的発達に関する事項（2018)』[6]、2021年には表現芸術及びデザインとの関連づけ、あらゆる子ども達を対象とした非―法定カリキュラム・ガイダンス『発達を大切に』(*Development Matters-Non-statutory curriculum guidance for the early years foundation stage*（2021）[7])の「表現芸術及びデザイン」の項目において０－３歳、３－４歳、レセプションクラス、の段階ごとに「子ども達が学ぶであろうこと」、「支援の例」がよりシンプルに示された。また、MNC と就学前のカリキュラム・ガイダンスの音楽の指導・支援内容には、音楽の要素が軸となり、継続的・発展的に繋がっている。

そこで本研究では、イギリスの就学前教育に関する法令カリキュラム EYFS2021年改訂版、カリキュラムガイダンス *Development Matters-Non-statutory curriculum guidance for the early y・ears foundation stage*（2021）を対象とし、音楽の諸要素に関わる活動を中心に年齢段階別にどのような音楽的援助の観点が示され、初等教育への接続も含めて展開されることを見込んでいるかを明らかにする。

EYFS の音楽領域に関する先行研究として、藤掛・北野・三村（2014）[8]は幼小接続の観点からイギリスとアメリカのカリキュラムを比較分析し、イギリスに関しては EYFS2012年版と初等学校 MNC1999年版を検討し、就学前教育において子ども達が主体となる遊びを通して想像や情景のイメージを基に音を知覚・感受する経験を土台として、小学校での具体的な音楽的要素や音の知覚・感受を学習する内容へと繋がっていく傾向を明らかにしている。

EYFS 及びガイダンスの先行研究としては、音楽分野の『音楽的発達に関する事項（2018)』について、鈴木（2019）[9]は EYFS の中の３－５歳のための音楽が EYFS ３つの主要領域の一つである「人間としての個人的社会的感情的発達」をどのように促しているかの関連性を示している。

EYFS2021年版及びカリキュラム・ガイダンスの音楽領域と幼保小接続の観点に関しては、管見の限り日本での論文は見られない。

従って本稿では、最新版である EYFS2021及びカリキュラム・ガイダンスの音楽領域に加え、MNC2013年告示版の指導の観点に基づき、就学前・初等教育低学年を対象とした2021年版音楽教科書を対象とし、音楽の諸要素の活用の観点と特徴を明らかにする。

３．研究結果

（1）EYFS 及びカリキュラムガイダンスと MNC　KS１における音楽の諸要素を用いた活動・支援

EYFS2021「表現芸術とデザイン」の「想像力と表現力豊かになるために」の中で、「子ども

達に期待される発達のレベル」として、音楽に関しては「一定の範囲の有名な童謡や歌を歌う」「他者と共に歌、韻文、詩と物語を演じ（perform）、適切な時に、音楽に合わせて動いてみる」ことが挙げられている。

ここでは他者と共に表現する「人間関係」が意識されており、詩や韻文と歌唱を同列に挙げて演奏する（perform）ことが挙げられていることから、歌唱を言語表現の一種として捉える傾向があると言える。イギリスでは演劇教育が盛んであり、GCSE 試験（General Certificate of Secondary Education　一般中等教育資格）の科目として「ドラマ（Drama）」が位置付けられていること、そして様々なルーツを持つ子どもと共に就学前教育を過ごす機会が多いことから、歌を通して言葉を学ぶ、そして演じる方向性が見られる。また、音楽に合わせて動く活動が年齢を問わず挙げられていることから、身体表現と音楽表現の結びつきの観点も見られる。2021年版カリキュラムガイダンス「表現芸術とデザイン」の音楽領域には、0歳～3歳、3～4歳、4歳以上のレセプションクラス全ての年齢段階で音楽の諸要素を通して音の知覚・感受を促す援助の視点が示されている。

年齢段階別では以下の通りである。

表1　0－3歳の支援の例

＜3歳までの乳幼児が学ぶであろうこと＞	＜支援の仕方の例＞
「きらきらぼし」のような手遊び歌 (action songs) を楽しみ、参加する。 「PeePo」のようなリズムと歌の中のフレーズと動きを予期する。	子ども達が言葉、メロディーと動きを学んで覚えるため、歌を定期的に歌う。 以下の様々な（筆者補足：要素）で音楽で遊び、演奏する ・強弱（大きい / 小さい） ・テンポ（速い / 遅い） ・音程（高い / 低い） ・リズム（音のパターン）

（Department for Education, 2021a,pp.116-117より抜粋、筆者訳出・作成 ）

「強弱・テンポ・音程・リズム」などの様々な要素で「遊び、演奏する」支援は、幼児対象のリトミックと同じ観点である。

表2においても、音楽の諸要素と身体表現とを結び付けたリトミックの理念に通じる視点がある。また、歌唱の発達段階として、3－4歳の段階では音域の上下も含めメロディーの輪郭をなぞるように歌うこと、声のコントロールの力が発展途上であることが示されている。また、音程を合わせる（pitch match）技能を育てることがこの段階で明確に意識されており、言葉を用いないこと、狭い音域で高低を変化させながら歌うこと、他人が歌う声の音程が認識できるようにすること、といった大人のピッチマッチへの指導にも通じる支援の方法が明示されている。

表２　３－４歳の段階

＜３－４歳が学ぶであろうこと＞	＜支援の仕方の例＞
（音程を合わせる）他の人が歌った音の音程を歌う。 馴染みのある歌のメロディーの輪郭（上がったり下がったり、下がったり上がったりするような動くメロディー）を歌う。 子ども達独自の歌を創ったり、子ども達が知っている歌を即興したりする。 自分達の感覚とアイディアを表現するための操作能力を伸ばしながら楽器を演奏する。	子ども達に歌を教える場合、あなた独自の音程（高い / 低い）に気づくようにする。子ども達の声は、大人の声より高い。子ども達の歌声を伸ばすよう支援する場合、限定した音域を用いる。例えば、多くの伝統的なわらべ歌よりも狭い音域（高い / 低い）で‘Rain,rain’を歌う。子ども達の歌声とそれらをコントロールする能力は発展途上である。子ども達に、彼らの「歌う」声を使うよう促しなさい。大きな声で歌うように言うと、子ども達はしばしば叫ぶ。 ゆっくり歌えば、子ども達には歌の言葉とメロディーがクリアーに聴こえる。 言葉を使ったり、使わなかったりして歌を活用する―子ども達はおそらく、言葉を用いない方がより簡単に音程を合わせることができる。「ba」のような1つのシラブルの音を使ってみよう。 歌や楽曲の拍を叩いたり足踏みしたりして、子ども達にやってみるよう促す。

（ibid., pp.122より抜粋、筆者訳出・作成）

表３　レセプションクラス

＜レセプションクラスの子ども達が学ぶであろうこと＞	＜支援の仕方の例＞
音楽を注意深く聴き、音楽で動き、音楽について話し、彼らの感覚と反応を表現する。 グループまたは一人で歌い、音程を合わせることが徐々にできるようになり、メロディーに沿って歌うようになる。	子ども達に注意深く音楽を聴くよう促しなさい。音楽作品が展開する時の変化とパターンについて話し合いなさい。 音程合わせゲームで遊び、子ども達が模倣できるように短いフレーズをハミングあるいは歌う。 言葉を入れたり入れなかったりして歌を活用しなさい―「ba」のような音でより簡単に音程を合わせることができるだろう。

（ibid., pp.124より抜粋、筆者訳出・作成）

ここでの音程やメロディー、フレーズといった音楽の諸要素は音を合わせたりフレーズを歌ったりできるようになるための技能の支援といった面が強く表れている。また、音楽を注意深く

聴くことで「パターン」について話し合うなど、2013年改訂以前のMNCの「Listening 聴取」に近い例が見られる。ゲームなど遊びながらではあるが、レセプションクラスの子が「学ぶ」ことが、初等学校への接続を見越して表面化していると考えられる。

また、多文化音楽の視点として、3－4歳では「様々な文化そして時代の幅広い歌を演奏し、共有し、演奏すること」(ibid,p.121) レセプションクラスでは「子ども達に世界中の多様な種類の音楽を紹介し、その中に英国の伝統音楽・フォークミュージックを含めること」(ibid.,p.124) が支援の観点として挙げられている。

一方、現時点での最新版となる2013年改訂版の初等学校段階KS 1に当たるMNCの「目的」は、下記の通りである。

表4　MNC　KS 1の目的

・偉大な作曲家や音楽家の作品を含む、様々な歴史的時代・ジャンル・スタイル・伝統の音楽を演奏し、検討し、評価する。 ・歌うこと、自分の声を使うこと、自分や他の人と一緒に音楽を作ったり作曲したりすること、楽器を学ぶ機会、テクノロジーを適切に使うこと、そして次のレベルの音楽に進む機会を持つこと。 ・音楽がどのように作られ、生産され、伝達されるかについて、(音程、音長、強弱、テンポ、音色、テクスチュア、構造、適切な楽譜) といった側面から相互に関連させる。

(Department for Education, 2013)

下線部のように、初等学校段階のMNCにおいても音楽の歴史的観点、多様な音楽を扱うこと、音楽の諸要素に関連させることが挙げられている。

KS 1 (5－7歳) の「教科内容」は下記の通りである。

表5　MNC　KS 1　教科内容

・歌を歌ったり、節を付けたりリズミカルに話したりして、声を創造的に使う。 ・音程のある、または音程のない楽器を音楽的に演奏する。 ・集中して理解しながら、様々な質の高い生演奏や録音された音楽を聴く。 ・音楽の相互に関連する要素を利用して、音を試し、創り、選び、組み合わせる。

(ibid.)

レセプションクラスでの「音楽作品が展開する時の変化とパターンについて話し合う」「子ども達独自の音楽を創ることを促す」観点はこの初等学校での聴取や音楽づくりの活動に繋がっている。

(2) 就学前 (3－5歳) と初等学校KS 1 (5－7歳) を対象とした音楽教科書における音楽の諸要素を軸とした活動と援助の視点

本稿では、就学前（3－5歳）の音楽関連の教科書として *EARLY YEARS FOUNDATION STAGE(AGES 3-5):DELIVERING THE EYFS THROUGH MUSIC*（2021）[10]、初等学校KS1の音楽教科書として *Kickstart Music 1*（*5-7yrs*）（2021）[11] を対象とし、音楽の諸要素を軸とした活動と援助の視点がどのように継続・発展しているかに着目する。

① 就学前教育（3－5歳）

EYFSに基づいた3－5歳を対象としたこのテキストは、音楽に関しては各題材に基づいた「音楽学習」の例が示されているが、その中での明確な年齢の区別はない。音楽以外の領域に関しては3－4歳、4－5歳で分けられている。

「音楽学習」の中で音楽の諸要素を用いた活動が明示されているのは下記の通りである。「雪が降る　Snowflakes fall」は歌の曲名である。

表6　「雪が降る」（「雪が降る時」の題材の一つとして）

この歌のメロディーは、子ども達の「ピッチマッチ」を育むのに有効な「歩み」あるいは隣の音のパターンに大きくアレンジされた、4つの音という非常に狭い音域でできている。それぞれの（筆者註：メロディーの）輪郭を、子ども達が模倣できるようモデル唱をしよう。その歌に馴染んできたら、子ども達に雪が積もるかもしれない他の場所を考えるよう促そう。例えば私のあご、私のコート、私のミット…そしてこれらの新しいバージョンを歌うのを楽しもう。また、歌う時に雪片を指でひらひらさせたり、きらきら光る、プラスチックの雪片あるいは紙ふぶきが入っている自家製のシェーカーで優しい音を奏でたりもできる。

（Sue Nicholus and Sally Hickman,2021, p.21）

ここでは子ども達が「音程」を合わせて歌えるようになるために対象曲の「メロディ」がどのような構成をしているか、その活かし方、歌詞やタイトルからイマジネーションを拡げた歌詞の「替え歌」、手作り楽器による「優しい」音色を加えるといった援助の手立てが挙げられている。

表7　「雨の樹」（「色でいっぱいの空」の題材の一つとして）

子ども達に以下のことを勧めることによって音楽を探求しよう。 ・軽く振っている雨粒を表現するように、高い所から低い所へと指をひらひら躍らせよう。 ・空に大きな弧を描いて色のついた吹き流しを波打たせ、虹の形を作ろう。

（ibid.p.41）

ここでは日本語で「Ame no ki」というタイトルが挙げられており、武満徹作曲の「雨の樹」を教材として取り上げていると考えられる。この曲は音域が上下する曲であり、「高い所から低い所へ」指を躍らせることによって、音の高低と雨の表現を体感させる意味があるものと考えられる。また、たゆたうようなフレーズを、吹き流しを「大きな弧を描いて」「波立たせ」

ることによって感じることができる。聴取と身体表現とが関連し合いながら、音楽の諸要素を通して楽曲の本質を味わおうとする活動である。

表８　「王者ティラノサウルス」（「恐竜を見たことある？」の題材の一つとして）

「王者ティラノサウルスだ！」のラインを繰り返すのを一緒にできるように、歌のモデル唱をしましょう。シンプルな下方順次進行のメロディーは、子ども達の「ピッチマッチ」を支援するだろう。これらの繰り返しのラインの伴奏として様々な楽器や音源で恐竜の音を作ることを探求しよう。

（ibid.p.37）

この活動ではメロディパターンの繰り返しを教師と一緒に子ども達が歌い、その順次進行のメロディーを教師の範唱と一緒に繰り返すことでピッチマッチの技能を向上させることをねらっている。更に、そのメロディーラインの伴奏を恐竜のイメージで創作することで、「音色」の探求に繋がっている。

② Kickstart Music １　初等学校 KS1（５－７歳）

この音楽教科書は「聴取、リズム、動き、音程と音そして発明」で構成されている。本稿ではそのうち音楽の諸要素に関わる活動が明示されているものを抜粋する（表９～表11）。

表 ９の３．のように拍の頭に合わせてスキップする動きは、リトミックの場合はタッカの付点リズムに合わせて動くことが多い。しかし実際はタッカのリズムと同時に動くよりも拍に合わせた方がスキップしやすいため、ここでは子ども達がより実践しやすいようこのような形が書かれていると考えられる。リズムの変化によってではなく、楽器の違いによって歩く・スキップ・ホップの動きを変えることから、ここではリズム感の習得よりも楽器による音色の違いを聴き分けることにねらいが置かれていると考えられる。

【聴取】

表９　聴くことと動き

1. ドラムで拍 beat（拍子 pulse）を叩こう - 子ども達は拍に合わせて歩く。 2. 拍の速さを変化させよう。子ども達は全員新たなスピードで拍に合わせて歩く。 3. タンバリンで拍を演奏してみよう―子ども達は拍に合わせてスキップする。 4. 子ども達がホップするよう、チャイムバーでそのプロセスを繰り返す。 5. ドラムからタンバリンへ、チャイムバーへと変化させる―歩く、ホップ、スキップによって子ども達は「音楽的な」指示を聞かねばならない。

（Anice Peterson and David Wheway, 2021, p.12）

【音程】

表10　あなたの声を見つけよう

2. サイレンのように音を作ってみよう―できるだけ低く、できるだけ高く、ハンドサインを使って実演しよう。そして子ども達にも同じようにやってみるよう言ってみよう。―“aah”“eee”“ooh”のような母音で。あなたの手でロケットの軌道を作って“whoosh!”と言いながらロケット発射しよう。

4. すごく遅く大げさなやり方で、1つの音で気取って“meow”と歌ってみよう。子ども達の口が本当にたくさん動いているのを確かめましょう。様々な音で（高くしたり低くしたり）歌い、そして子ども達が正しく歌うかどうか聞こう。子ども達が彼らの音程をコントロールできると確信を持った際は、全ての子ども達がその音程を正確に拾うチャンスを与えるため、まだ非常にゆっくり、徐々に音階にして歌いましょう。

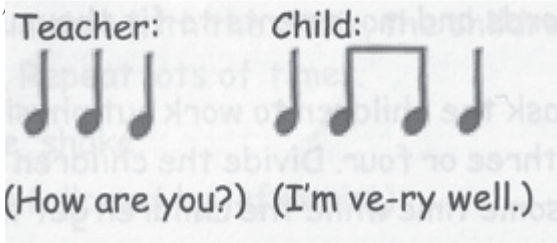
（ibid.p.41）

一つの音の高低から徐々に音階にして歌うやり方は、ピッチマッチを狙って正確に歌うことばかりを行うよりも、遊びの要素がある上に子どもの声帯の発達段階まで考えられたものと考えられる。

【リズム】

表11　トーキングドラム

1. 子ども達は輪になって座る。
2. 教師はドラムを持って輪の真中に座る。
3. 1人の子どもがドラムの反対側に座る。
4. ドラムで「話そう」－教師は音楽的な質問であるかのように、リズムを演奏する。1人の子どもは音楽的な答えになるようにリズムを演奏して返す。最初は、教師は演奏しながらしゃべっても良い。



5. 全員がこの原理を理解したら、教師はB児と交代し、A児に次の「質問」を尋ねる。
（子ども達はおそらく質問についての支援を必要とするだろう。）
6. 一緒に始めるために言葉を使うのが良いが、しばらくしたら子ども達に音楽的な「質問」を言葉を使わずに行い、同じく言葉なしで答えるよう促そう。
7. このゲームを子ども達のペアで行うことを続けるか、あるいは「音楽エリア」活動として続ける。

（ibid.p.28）

トーキングドラムはアフリカの音楽文化であり、この活動は表4のMNCの目的にあるよう

に「様々なジャンル・スタイル・伝統の音楽」を演奏し、検討することにあてはまる。「リズム」を学ぶことが主軸となっているが、コール＆レスポンスの構造も体感するため、フレーズと拍の学びにもなり、創作することでより一層その音楽の構造が理解できる仕組みとなっている。

４．総合考察

以上の結果から、EYFS2021,2021年版カリキュラムガイダンスについては、下記のことが考えられる。

・音楽的要素や音の知覚・感受を促す視点が0歳児段階から示されていることにより、幼小接続の観点が強く意識されている可能性がある。また、３-４歳の段階から音楽史の観点を持って音楽を選び、演奏したり共有したりする援助の視点が示されていることから、音楽科ナショナル・カリキュラム KS２（７－11歳）における「幅広く、様々な伝統による質の高い生演奏や録音された音楽 , 偉大な作曲家と音楽家による音楽を評価（appreciate）し、理解する」という内容を見通していると考えられる。

・イギリスは多民族国家という背景があるため、様々な文化的背景を持つ子ども達に多様な文化の音楽を聴き、踊ることを通して他者の文化への理解を育む必要性がある。

就学前・初等教育の音楽教科書の音楽の諸要素を通した活動については下記の特徴がみられる。

・４歳以上から初等学校 KS１の歌唱活動においてピッチマッチの支援を行う観点が顕著であり、そのために遊びの中で音楽の諸要素を意識する活動が行われている。
・音楽の諸要素と身体表現を結び付けた活動が「聴取」の力と組み合わせて設定されている。
・就学前ではイメージと結び付けた創作と身体表現に音楽の諸要素を通した学びがある。
・初等学校 KS１では、リトミックに通じるような音楽の要素の変化に合わせた聴き分けと動きの変化の活動が、聴取の力と動き、楽器を用いた表現とを組み合わせた形で提示されている。
・初等学校でも就学前でも、アジアやアフリカなど多文化の楽曲や音楽の構造を聴いたり創作したり、身体表現と組み合わせたりすることでその仕組みを体感できる事例が挙げられている。

上記の中で特に就学前の早い段階で「音程」に関わるピッチマッチの支援の観点が含まれていることが特徴的であるが、イギリスのカリキュラム・ガイダンス及び教科書で示されているピッチマッチの援助・指導は決して訓練的なものではなく、イマジネーション豊かに、遊びの

中で様々な音楽の諸要素と関連させながら楽しく学べるような例が挙げられている。このような観点は、日本での実践においても示唆となるだろう。

註及び引用文献

1）・Department for Education (2015)*Provision for children under five years of age in England*：*January.*

2）・Department for Education (Rivised July 2021a)*Development Matters-Non-statutory curriculum guidance for the early years foundation stage*
https://www.gov.uk/government/publications/development-matters--2　（最終アクセス2022年9月19日）

・Department for Education (2021b)*Statutory framework for the early years foundation stage-Setting the standards for learning, development and core for children from birth to five,* https://www.gov.uk/government/publications/early-years-foundation-stage-framework--2（最終アクセス2022年9月19日）

3）Department for Education (2013a)*Music programmes of study: key stages 1 and 2 National curriculum in England*

4）Department for Education (2013b). *The National Curriculum in England: Key stages 1 and 2 framework September 2013.*

5）Department for Education(2021a)

6）Burke,N.(2018)*Musical Development Matters in the Early Years, The British Association for Early Childhood Education,*

7）Department for Education(2021b)

8）藤掛絢子・北野幸子・三村眞弓（2014）「音楽領域における幼小接続カリキュラムの検討―イギリスとアメリカの比較を中心に―」『国際幼児教育研究』2014,Vol.21.,pp.17-25.

9）鈴木敦子（2019）「音楽はイギリスの3－5歳児の個人的・社会的・感情的発達をどのように促しているのか：『音楽的発達に関する事項（2018）』の教育的な影響についての一考察」『教職研究』2018, pp.13-28.

10）Sue Nicholus and Sally Hickman, *EARLY YEARS FOUNDATION STAGE(AGES 3-5):DELIVERING THE EYFS THROUGH MUSIC*(2021),HarperCollinsPublishers Ltd.

11）Anice Peterson and David Wheway,*Kickstart Music 1(5-7yrs)*(2021),LMP Publications.